

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域資源を活かしたまちづくりと観光の魅力化	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	自然を生かしたまちづくり		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	どんちゃん		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択 →		2. 学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	宮崎雪茄		
メンバー(公開)	富田昂佑、広瀬美緒、中下アヤカ		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

<チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)>

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

・農家の廃棄野菜を求めて野生動物が山から降りてくる事によって収穫前の野菜が被害を受けてしまう。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

(何を)

野生動物により食品ロスになってしまった食品を捨ててしまうのは勿体ないと感じたため食品ロスになってしまった食材を使いこども食堂を開催する。

(誰が誰に対して)

裾校生が中心となって活動を行う。食品ロスになってしまった食材を地域の農家の方に提供してもらい、その食材を活用して地域の方に協力してもらいまだ使えるけれど食品ロスになってしまった食材を使った子ども食堂を開催する。

(いつ)

土曜日

(どこで)

高校の近くでこども食堂が行われている神社や公民館で行う予定

(どのように)

地域の農家の方から、食品ロスになってしまいそうな食材を譲っていただき、その食材を活用してこども食堂で子どもたちに提供する。本来なら廃棄されてしまう食材が、子どもたちの栄養になる温かい食事として役立つ。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

（なぜこのアイデアが有効なのか）

一つ目の理由は、裾野市には食べられるけれど廃棄されてしまう食品が多くあるからです。

野生動物の被害だけでなく形や色が悪く販売されない食品も多くあることをこの活動を通して知りました。その食品たちを使いこども食堂を開けば食品ロスを少しでも減らすことができると考えたからです。

2つ目の理由は、地域での関わりが増えることです。普段の生活ではあまり高齢者の方や子どもたちが関わる機会があまりない人のいると思います。この子ども食堂を開催することで背曲的に地域と関わることをできると考えます。

（実現する意味）

こども食堂によって地域での関わりを増やすためです。

そしてこども食堂に来てくれた子どもや保護者の方に食品ロスの問題について知ってもらい食品や資源を無駄にしないことについて子どもたちに知ってもらいたいと考えています。

また食品ロスの解消はSDGs（持続可能な開発目標）にもつながる重要な課題です。こども食堂という取り組みを通じて地球環境にも優しく、人々が関わり会える地域の構築に貢献できると考えます。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

裾野校生が主体となって活動します。

支援団体は裾野市役所、地域に農家の方(協力していただく農家の方は調査中)

2. 実現に必要な資源

資源の配送は裾の校生が行います。

こども食堂で提供する料理の材料(農家の方に提供していただきます)

野菜以外のタンパク質などの食品。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

これまでの時間軸

4.5 月 テーマの設定

6 月 課題に対する仮説

7 月 中間発表

8.9 月 市役所でのヒアリング

10.11 月 こども食堂主催者、農家の方とのヒアリング

これからの時間軸

11 月 支援してくださる農家の方を増やす、こども食堂に野菜などを提供

12 月 実際に子ども食堂に参加、参加者や運営者に感想を聞く→再調整、改善

1 月 最終確認、食事提供と交流